



「チーム県南」を合い言葉に

県南教育事務所長 佐藤 晃

現在、学校訪問をとおして、学校経営や授業を参観させていただき、すばらしいと感じていることがある。それは、一つ目に各市町村教育委員会の教育目標及び方針等が学校経営・運営に浸透し、各市町村の特色ある教育活動が展開されていることである。二つ目に学校経営・運営ビジョンが教職員はもとより、保護者や地域住民に理解され、学校、家庭、地域が一体となって、開かれた学校づくりが行われていることである。三つ目に基礎的な学習内容の定着を図る学習指導と、話をしっかりと聴いて、考えを発表し合い、協働で課題を追究する学習活動を大切にしていることである。四つ目に家庭との連携を図り、家庭学習や読書の習慣化、運動・食事・睡眠等の基本的な生活習慣の形成に努めるとともに、肥満の解消や体力の向上を図るために、健康教育や体育に関する指導の工夫・改善に取り組んでいることである。どの学校においても実態と課題を的確に捉え、明確なビジョンの下、組織的な学校経営・運営がなされており、児童生徒も落ち着いて、真剣に授業に取り組んでいる。各学校の教育活動の成果を大いに期待したい。

また、県南中学校総合体育大会を観戦し、大きな感動を得た。軟式テニスや卓球、バドミントンなどは、数多くの試合が生徒審判によって行われ、生徒主体でスムーズに大会が運営されていた。野球やソフトボールは、生徒た

ちの手でグラウンド整備が手際よく行われ、試合では一球入魂の息詰まる攻防を展開していた。バスケットボールやサッカーは、チーム一丸となってゴールを目指し、さわやかなフェアプレイを展開していた。バレーボールは、1ポイントごとに選手同士が駆け寄り、称え合い、励まし合う姿から連帯感や躍動感が伝わってきた。ホッケーは、出場校が1校のため、日ごろは練習を共にする仲間が2チームに分かれ、真剣勝負を繰り広げていた。柔道は、全ての試合が1会場で行われ、選手一人一人が注目を一身に集め、気合いの入った掛け声を会場一杯に響かせていた。剣道は、女子団体の決勝戦が行われ、選手の一挙手一投足に会場全体が息を呑み、礼節を重んじる凜とした雰囲気にもまれていた。体操は、既に演技を終えていたが、一人一人の表情から達成感と、次の大会に向けた強い意気込みが伝わってきた。どの競技も恵まれた環境の中で、顧問の先生や競技役員、保護者の方々に見守られ、日ごろの練習の成果を思う存分発揮し、一生懸命競技する生徒の姿がとても輝いて見えた。

このような学校や児童生徒の様子から、確かな手応えと大きな可能性を感じている。改めて「チーム県南」を合い言葉に関係の皆様と共に心をついて、夢や希望を育む県南の教育に邁進していきたいという思いを一層強くしているところである。

『不祥事根絶を目指して』

～域内の課題は交通事故防止～

昨年度、県南域内では小・中学校の教職員事故が、計17件発生いたしました【表1】。前年度より2件増えていますが、懲戒処分を受けた案件はゼロで、教職員の皆様一人一人が教育公務員としての自覚を深め、厳正な服務に努めた成果であると思っております。各市町村教育委員会、そして各学校の事故防止への取組に改めて感謝申し上げます。

さて、昨年度の教職員事故の内容をみると交通事故が13件で、そのほとんどが加害事故でした。交差点で前車が停車したことに気付くのが遅れて追突したり、信号が青になり発進したところ前車が停車していて追突したりするなどのケースが多く、ちょっとした気の緩みが事故の要因となっています。こういった交通事故が全体の4分の3を占めており、域内における教職員の事故防止が最大の課題であると言えます。交通事故が減少すれば、域内の事故件数は大幅に減少するのです。各学校

におきましては、交通事故防止に向け、校内服務倫理委員会等において具体的な防止策を全職員で話し合っていたきたいと思います。

また、残念なことに、県全体をみると体罰やわいせつ行為など重大かつ悪質な不祥事が、未だ発生しております。「交通事故ゼロ」「不祥事ゼロ」を目指し、教職員一人一人が不祥事を自分の問題としてとらえ、不祥事根絶に向け

あらゆる努力を積み重ねていくようお願いいたします。

【表1】 H25年度及びH26年度の事故発生件数

年 度		H25	H26	増減
体 罰	交通事故	1	0	-1
	人身加害	4	8	+4
	被害	1	1	0
	物損加害	1	4	+3
負 傷 事 故	被害	6	0	-6
	その他の事故	0	3	+3
合 計		2	1	-1
		15	17	+2

夢と希望をはぐくむ県南の教育の推進

～学校教育課関連記事～

「豊かなこころの育成」

県南教育事務所では、「道徳教育の充実」および「教育相談体制の整備」に重点を置いて、児童生徒の豊かなこころの育成に取り組んでいます。

道徳教育の充実については、生命尊重や家族愛、地域とのきずなを大切にする心など、震災の教訓を生かした道徳教育を推進します。また、「ふくしま道徳教育資料集」（第1集～第3集）の積極的、効果的な活用を推進し、実施率100%を目指します。

教育相談体制の整備については、児童生徒のニーズに応じた心のケアのための、SCやSSW、関係機関との連携を密にした教育相談の充実を図ります。昨年度の域内におけるSCやSSWの活用状況を見ると、SC相談件数は5,903件、SSWについては、訪問活動が181件、ケース会議が64件と、いずれも一昨年度を上回る活用状況となっています。

SCについては、昨年同様、全ての高等学校と中学校に、小学校においては11校に配置し相談体制の充実を図ります。SSWについては、教育事務所に配置されているSSWが、町村としてSSWを委託している西郷村、矢吹町、棚倉町、塙町を除く5市町村の要請に対して、訪問活動やケース会議への派遣等を行い、個に応じた支援に当たります。

「確かな学力の向上」

「授業改善なくして学力向上なし」

今年度もスタートアップ訪問やスキルアップ訪問（12月以降予定）、要請訪問や計画訪問をととして「授業改善」につながるよう支援して参ります。

それらの中で、特に三つの視点を大切にしています。

1 板書計画を生かした授業づくり

授業の基本的な指導技術の一つとして「板書」が挙げられます。板書は、学習内容の定着ばかりでなく、さまざまな情報や考えを共有化したり、思考を促したりする機能を持っています。板書の活用事例などを紹介していく予定です。

2 言語活動を充実した授業づくり

児童生徒が目的意識を持って自己表現をすることで学力が一層高まります。学習の目的や必要感を持たせ、各教科等の特質を十分に踏まえた言語活動の設定が「授業改善」につながります。

3 少人数教育のよさを生かした授業づくり

少人数教育のよさは「きめ細やかな児童生徒の見取り」にあります。だれが、どこでどのようにつまづき、どのような支援が必要なのかを考え、個に応じた授業づくりが大切です。

「健やかな体の育成」

「ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト」の目玉である「小学校体育専門アドバイザー派遣事業」が始まりました。福島県教育委員会、初の取組です。ねらいは、体育の授業及び体育的活動充実のための支援をすることにより、児童が運動を好きになり、県の健康課題「体力低下」「肥満傾向児の増加」を改善していくことにあります。

既にご活用いただいた学校からは、「運動身体づくりプログラムを効果的に行うポイントを助言してもらえた」「鉄棒の技のポイントを教えてもらい、子どもができるようになった」「休み時間、一緒に運動してもらって子どもがとても喜んでいる」など、好評を得ています。また、ご要望等もいただき、実践しながら改善を図っているところです。

アドバイザーの派遣は、簡単な手続きでご活用いただけます。県南域内全ての小学校へ伺いたいと思います。事務所より学校へご連絡をさせていただく場合もあります。

「小学校体育専門アドバイザー」派遣事業

体を動かす楽しさを感じさせます！

体力向上のきっかけをつくります！

学校に元気をとどけます！

ぜひご活用ください！



「特別支援教育の推進」

【新規】特別支援学校機能強化事業

今年度より、特別支援学校機能強化事業が始まりました。これは、特別支援学校が、地域の幼稚園、小学校、中学校、高等学校等の要請に応じて支援を行うセンター的機能を効果的に発揮できるようにするための事業です。この事業では、学校や先生方の以下のような悩みに応えることができます。

- 〔例〕・ 特別支援学級の指導・支援を充実させたい。
- ・ ケース会議や校内委員会を充実させたい。
- ・ 高等学校に在籍する障がいのある生徒の指導支援を充実させたい。
- ・ 特別支援教育に関する研修をしたい。

依頼の手続きに関しては、県南教育事務所まで、お問い合わせください。

また、幼稚園、学校等へ巡回相談員が訪問して相談支援を行う、「巡回相談」も引き続き実施しておりますので、ご活用いただきたいと思います。

平成27年度、県では、特別支援教育の充実のために「個別的教育支援計画」の作成率、特別支援教育に関する校内研修率、共に100%達成を目標にしています。個別的教育支援計画の作成並びに活用をよろしく願っています。

県南の家庭・地域の教育力向上のために

～県南教育事務所の家庭教育支援事業～

県総合教育計画の中に、三つの基本目標の一つとして「学校、家庭、地域が一体となった教育の実現」という目標が位置づけられています。これを受けて、県南教育事務所の社会教育の重点としても「家庭、地域の教育力の向上」を掲げ、県の事業をベースとして、県南独自の内容も取り入れながら「家庭教育応援プロジェクト」として次のような事業を展開しています。

1 地域家庭教育推進県南ブロック会議

教育事務所が実施主体となり、域内の学識経験者、PTA連絡協議会、学校関係者、企業、地域の子どもと関わる団体、行政関係者の代表で組織し、域内の課題等から、事業内容の検討や評価を行います。



2 家庭教育支援プログラム

PTA行事や家庭教育学級充実のために、関係団体協力の下、次のようなプログラムを準備しています。

(1) 家庭、地域の絆を深めるプログラム

- 気持ち伝わる「十七字のふれあい」支援(新規)
 - ・「十七字のふれあい」事業の過去の優秀作品等を紹介し、作品作りのコツを親子で学べます。
- メディアコントロール運動支援
 - ・この運動を始めたり、充実を図ったりするため

の情報提供やアドバイスをします。

(2) 親子の体験を豊かにするプログラム

- 親子で遊ぼう！心のケア教室
 - ・ パルーンアート、物作り、昔遊びなど親子で一緒に遊んでふれあいを持ちます。
- 親子で体験！ニュースポーツ
 - ・ 親子一緒に、フライングディスクやキンボールなど珍しいスポーツに挑戦します。
- 親子で楽しむ読み聞かせ教室
 - ・ 親子一緒に読み聞かせを楽しみます。

(3) 親子の学びを充実させるプログラム（主なもの）

- 親子で学ぶ携帯モラル教室
- 子どもと向き合うために
- 子どもの心を引き出す会話術
- 家庭で実践、食育講座
- 尊重し合える人間関係
～デートDVについて考えよう～

3 家庭教育応援企業推進活動

企業への家庭教育に関する資料提供、運営アドバイス、講師紹介等を行います。

4 家庭教育応援リーダー育成

家庭教育支援者スキルアップセミナー等を開催し、地域の家庭教育をリードしていく人材を育成します。このような事業やプログラム、研修会等を通して、県南域内の家庭・地域の教育力向上を推進していきます。

幼稚園・適応指導教室 紹介

「心の豊かな子供の育成」

矢吹町立三神幼稚園

本園は昭和41年4月矢吹町立矢吹幼稚園三神学級として三神小学校校舎で開園し、今年で創立49年目を迎えました。現在の園児数は40名、3クラス。少人数の良さを生かして、一人一人を大切に作る細かい支援と異年齢児との交流を行い、教師間で連携を図りながら、子どもと一緒に考えていく過程を大切にしています。子どもたち一人一人が遊びの中で、見る・調べる・作る・探す・育てる等、活動を通して生き生きと生活できるように取り組んでいます。

本園の教育目標は“友達が大好きな子ども”“自分で考えて行動する子ども”“健康でたくましい子ども”の3つです。自分なりに考え判断し、行動できる積極性と表現力を育て、さらに、5領域をバランスよく指導計画に取り入れることで、心身の調和のとれた発達を目指した教育に取り組んでいます。

特に今年度は健康な心と体を育てるために、子供達と「栽培・親子でクッキング・楽しく食する。そして、野菜が大好き」を目指し、家庭とも連携を取り合い食育を進めています。



二十日大根の収穫

「すこやか教室で自立を」

西郷村適応指導教室

すべての子どもたちが毎日元気に学校に通い、集団生活や各教科の授業を通して生きる力を身に付け、進路実現を果たしていくことがみんなの願いです。しかしながら、さまざまな事情により学校に行くことができない子どもたちもいます。すこやか教室は、そのような子どもたちのために平成21年度から西郷村教育委員会が設置しています。

子どもたちは、週に3日、自分が立てた学習計画に基づいて、すこやか教室で自主的に学びます。学習に関する支援は、配置した指導員が主に行いますが、所属する学校からも教員が訪問指導を行い、学力向上のためにチームで子どもたちを支援しています。

現在、複数の子どもたちが在籍していますが、スポーツや作業的な学習の中で互いにかかわりを持ち、社会性を身につけることにも繋がっています。また、子どもたちは、この教室から学校復帰、高校進学を果たしている先輩の姿を見る体験をしてきているため、自分たちも将来は進路実現を果たしていくのだという希望を持っています。今後も保護者や学校との連携のもと、子どもたちの自立に向けて全力で支援していきます。

新任の先生方から



「尽力」

西郷村立羽太小学校
校長 西牧 泰彦

その昔、鶴の子どもがすくすくと育ったということから「羽太」と呼ばれるようになったこの地で、校長職としての第一歩を踏み出しました。

その名前の通り、羽太小学校には地域に支えられ、家族に見守られ、明るく素直に、そして、元気に学習、運動に取り組む子ども達の姿があります。この子ども達の姿がさらに生き生きと輝くように、校長として、子ども達と向き合い、先生方と語り合い、課題解決と教育目標の具現、子ども達の夢の実現に向けて、真摯に学校経営に力を尽くしていきたいと思います。



「地域と共に未来の人材を育成」

矢祭町立矢祭中学校
校長 新井 達也

福島県最南端に位置する本校は、ゆったりと流れる久慈川と広大な水田が眼前に広がっております。町唯一の中学校であり、地域や保護者から手厚く支えられている一方で、学校教育への期待が大きい町でもあります。

着任して2週間後に、オーストラリアへの修学旅行(2泊5日)を引率いたしました。国際性豊かな人材を育成するという町の主要事業の一つです。

2度目の勤務という好条件を最大限に生かし、未来の矢祭町を担う生徒のために、有能で機動力のある教職員をリードし学校を運営していきたいと考えております。



「子ども達のために」

鮫川村立鮫川小学校
教頭 石川 勝佳

今年の運動会の出来事です。雨天対策のため30分遅らせた開会式を体育館で行っている間、保護者や地域の皆さんが、児童席のテントを6張り手配・設置したり、校庭整備をしたりしてくださいました。私はその姿を見た時、感動で胸が熱くなり涙が止まりませんでした。

素直で元気な子ども達・温かい地域の皆さん・豊かで美しい自然・恵まれた教育環境に感動の毎日です。鮫川小学校181名の子ども達のために、地域や保護者の皆さん・関係機関の方々のご協力をいただきながら、頑張っていきたいと思います。



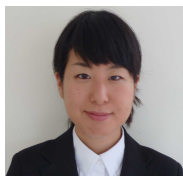
「勇往邁進」

白河市立東北中学校
教頭 橋本 美智子

4月1日、緊張と不安でいっぱいの私を迎えてくれたものは、生徒の元気な挨拶と先生方の明るい笑顔でした。今も生徒の元気に勇気をもらい、先生方の優しさに支えられ、保護者の方々の温かさに包まれて過ごしています。

「勇往邁進」。今年度の本校のスローガンです。現在の私を支えることばでもあります。「生徒のために」先生方、保護者、地域の方々と共に、自分ができることを丁寧に、一生懸命行っていきたいと考えています。

目の前に広がる緑を眺め、鳥のさえずりを聞きながら「今日も頑張るぞ。」と毎日、一歩を踏み出しています。



「初心を忘れず」

塙町立塙小学校
教諭 鴨田 美咲

4月、念願の教諭になることができた嬉しさとともに、塙小学校に着任しました。新しい学校、新しい生活への不安もありましたが、元気いっぱいの子もたちと久慈川の桜に励まされながら、充実したスタートを切ることができました。

現在は、周囲の先生方に支えられながら毎日を過ごし、教員としての責任を自覚しているところです。学び続けることができる環境に感謝しながら、子どもたちがいきいき・わくわくする授業を目指し、笑顔で毎日を過ごしていきたいと思います。



「新任教諭として」

矢吹町立矢吹中学校
教諭 遠山 修平

5年間講師を経験し、晴れて教諭になることができたことに対して、これまでにない喜びと、一人の教師、教育のプロになったという不安の中、毎日を送っています。これまで取り組んできた実践を踏まえ、今後も授業に校務に部活動に生徒と向き合いながら励んでいきたいと思っています。

どこの学校で働いていても毎年のように先輩方から話をされ、心に留めている言葉があります。それは「謙虚」という言葉です。本校でも「職務を遂行するときは謙虚さを忘れてはならない」ということを強く意識し、一意専心努力を続けていきたいと思っています。